



一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

システム審査部発行

〒101-8986 東京都千代田区神田錦町 1-9

TEL 03-5283-0476

FAX 03-5281-2827

ホームページ <https://www.bcj.or.jp>

Eメール sinsa@bcj.or.jp

ISOだよりの所有権はシステム審査部に帰属します



新型コロナウイルス対応のお願い

日頃より、弊認証機関の認証業務にご協力いただきまして感謝申し上げます。

弊認証機関では、2020年3月から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、これまで、現地審査の延期等の措置(※1)を講じてまいりましたが、5月末に、緊急事態宣言が解除されましたことを受け、引き続き感染症拡大の防止に最大限留意しつつ、6月より、現地審査を再開させていただいております。

認証組織の皆様ならびに審査員の安全確保を第一に考え、現地審査における対策として、下記のとおりご協力いただいておりますが、第3波の拡大が心配されております。

なお、現地審査実施についてご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

引き続きご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

記

- 1) 現地審査では、審査参加者を最低限に絞ってください。
- 2) 現地審査では、できましたら換気が可能な会議室をご用意願います。(審査員から窓や扉の開放をお願いする場合があります)
- 3) 現地審査では、できるだけソーシャルディスタンスを確保するようご協力願います。
- 4) 審査中はマスクを着用願います。(審査員も着用させていただきます)
- 5) 審査中、適宜休憩を挟ませていただきます。(通常より少し長めに取らせていただく場合があります)
- 6) 審査開始時間については、組織様の事情を考慮し、調整させていただく場合があります。
- 7) 昼食については、対面や狭い場所で大人数にならないよう、審査員との同席はご遠慮願います。

ます。

8) 名刺交換は最小限とさせていただきます。

※1：新型コロナウイルス感染防止対応として、審査の延期措置をとることとし、現在の有効期限から6か月を超えない期間で、MSの有効性及び継続性の検証が確認された場合、認証の延期措置が可能となっております。この場合の認証有効期限は、元の再認証サイクルに基づくこととします。

「2020年度 第1回ISO情報交換会」を開催致しました

一般財団法人 日本建築センター システム審査部 (BCJ-SAR) では、認証組織の皆様がマネジメントシステムを効果的に運用して頂くために有用な情報をご提供する場として、毎年「ISO情報交換会」を開催しております。前号では、2020年6月開催予定とご案内させていただきましたが、新型コロナウイルスの影響でさらに延期となり、2020年11月11日にZOOMを用いて以下のとおり開催いたしました。

「2020年度 第1回ISO情報交換会」の内容

- 不測の事態に備えたマネジメントシステム対応について
- 2015年版システム運用における疑問点について (質疑・応答)

【講師：谷澤勝雄 審査員】

<開催日程>

2020年11月11日 (ZOOMによる開催)



■不測の事態に備えたマネジメントシステムの対応について

IS09001 要求事項に関連した緊急事態に備えた考慮事項について、講師の谷澤審査員から説明しました。

どのような事態となった場合を『緊急事態または不測の事態』と定義するかは、各組織が明確にし、取組み、自ら宣言することである。そして、

- ・発生時
- ・災害応急支援時
- ・復旧工事時

に何ができるかを予測し、事業の継続・早期復旧を図るために、BCP（事業継続計画）を準備しておくことが重要である。

緊急事態における企業の社会的責任に基づく活動方針の例としては、

- ・従業員及びその家族の安全の確保
- ・顧客への製品提供の継続
- ・地域社会への復旧活動等の支援
- ・顧客及び協力会社との協調

が挙げられる

事業を継続し、持っている経営資源をどのように地域・社会貢献に役立てるかを明確にし、準備することは、BCP 策定の目的である。

組織は、緊急事態発生時における役割分担及び組織構成を明確にする。また、要員については、家族構成、通勤手段、住宅の安全性等を考慮して、参集可能性を予測し、準備する。

緊急時連絡先名簿を作成し、社内の要員及びその家族の安否確認を含む緊急連絡ツールをあらかじめ作成しておく。

顧客とのコミュニケーション方法、組織の製品提供能力及びその必要性を明確にする。製品提供の質・量・優先順位等の申し合わせが必要になる場合もある。

■QMS/EMS 運用に関わるご質問・要望事項

今回の ISO 情報交換会では、参加組織の方々から事前に質問事項等をご提示頂き、交換会当日にその回答について説明しました。

《主な質疑応答》

Q:ゼネコン各部署における「リスク」と「機会」の具体例を挙げて欲しい。

A:BCJ 編『IS09001:2015 の概要と解説 (2015 年版移行ガイド)』に工事会社における「内部・外部環境の課題の傾向・好ましくない影響の例」及び「利害関係者のニーズ・期待の傾向・好ましくない影響の例」を参考として示して

おきますので、該当するものを組織内の各部署に当てはめてみてください。

Q:7.5 文書化した情報の、『規格が要求する、保持する文書化した情報（記録）』の 7.2 力量の証拠に関する記録には、品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性に影響を与える業務につかせられる力量があると云う、力量の証拠となる記録を要求しているように読み取れるが、文書の制改廃についての教育等も含まれるのか。

例：「設計を行う業務」につかせる場合

→教育訓練記録等での力量の証拠となる記録が必要か。

「設計管理基準」の文書の改訂の場合

→改訂部分を教育した記録は、力量の証拠として必要か。

A:「規格要求事項：7.2 力量」に下記とされている。

a) 品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性に影響を与える業務をその管理下で行う人（又は人々）に必要な力量を明確にする。

b) 適切な教育、訓練又は経験に基づいて、それらの人々が力量を備えていることを確実にする。

c) 力量の証拠として、適切な文書化された情報を保持する。

従って、品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性に影響を与える業務につかせる要員の力量の証拠となる記録は、必要になります。但し、組織が定める力量基準（すなわち、力量があると認められる教育・訓練・経験の基準）の範囲内で教育・訓練・経験の記録が必要になります。

Q:「4.4.1 e) これらのプロセスに関する責任及び権限を割り当てる」と、「5.3 組織の役割、責任及び権限の b) プロセスが、意図したアウトプットを生み出すことを確実にする」という規格解釈について、責任及び権限を割り当てられた該当する、それぞれのプロセスの責任者は、プロセスのアウトプットの記録等に署名等をして、プロセスを監視している証までを要求しているか。・・・署名が必要か。

A:署名までは要求していないと思います。

但し、「規格要求事項：8.6 製品及びサービスのリリース」における「b) リリースを正式に許可した人（人々）に対するトレーサビリティ」の証拠とする場合は、必要になります。

<補足>「規格要求事項：4.4 品質マネジメントシステム及びそのプロセス：4.4.1 e)」は、

QMSを計画するに際して、「0.3 プロセスアプローチ」の概念で構築することの要求事項であり、「規格要求事項：5.3 組織の役割、責任及び権限：b）」は、2008年版規格では、管理責任者に割り当てられていた要求事項であり、直接的な関連はさほどないと思います。

Q: 「4. 組織の状況」～「6.1 リスク及び機会への取組み」の流れ及び内容について、全ての部署が理解し説明できるようにしておく必要があるのか？【※1】

審査を受審すると、部署レベルで、「御社の外部及び内部の課題は？」、「御社の利害関係者の要求事項は？」、そして「リスク及び機会は何？」、「リスク及び機会への計画はどのように実施しているのか？」等の質問が投げ掛けられ、毎回、回答に苦慮しているところがある。特に、弊社の場合、「リスク及び機会への取組み」は、6.2の目標管理の仕組みに乗せ取組んでおり、部署レベルでは、「リスク及び機会への取組み」は、あまり知らなくても、従来からある目標管理の仕組みで、さり気なく、リスク軽減を図りたいが、いかがなものか。【※2】

<補足>

- (1) 「4. 組織の状況」～「6.1 リスク及び機会への取組み」の流れ及び内容についての詳細な理解・説明は、経営層、QMSの管理者レベルにとどめておきたい。
- (2) リスク及び機会という言葉が難しく感じられ（馴染みがわかず）、敬遠される。⇒他の言葉で置き換えるべきか？
- (3) 部署レベルの人も内部監査員であればこれらの理解及び知識は持っていたほうがよいのか。【※3】

A: 回答者は、組織の仕組みが分かりませんので、一般論としてしか答えられません。その上で、以下コメントして示します。

【※1】 経営層レベルでの経営上のリスク及び機会が、【※2】として、取組むべきリスク及び機会を品質目標で展開していることを前提として、必ずしも、全ての部署が理解する必要がないと思います（ここは微妙です。部署の責任者は理解しておく必要があると思われれますが）。しかしながら、部署の状況に関連するリスク及び機会もあると思われれます。例えば、製品及びサービスの実現のために必要とする経営資源に関連した部署固有のリスク及び機会、部署の責任と権限を遂行

するに伴う部署固有のリスク及び機会等です。

【※2】 確かに、特定したリスク及び機会を品質目標で展開する方法もあると思います。ここで、留意してほしいのは、下記のプロセスを明確にすることです。（規格は、文書化は要求していませんが、説明が必要です。）

- ・外部及び内部の課題／利害関係者のニーズと期待の特定
- ・これらに関連するリスク及び機会の特定
- ・組織の場合は、品質目標に展開
- ・リスク及び機会（＝品質目標）への取組みのプロセス
- ・外部及び内部の課題に関する情報の監視・レビュー／利害関係者及びその関連する要求事項に関する情報の監視・レビュー
- ・品質マネジメントシステムに関連する外部及び内部の課題の変化／リスク及び機会（＝品質目標）に取組むためにとった処置の有効性（マネジメントレビューへのインプット）
- ・品質マネジメントシステムのあらゆる変更の必要性（マネジメントレビューからのアウトプット）

【※3】 内部監査の目的・プログラムによりませんが、内部監査員は理解しておいた方が良いかと思えます。

「規格要求事項：9.2 内部監査の「1）品質マネジメントシステムに関して、組織自体が規定した要求事項」に、組織の方針・目的（マネジメントレビューでの指示事項／リスク及び機会への取組み／目標への取組み等）が含まれると考えられますし、「b）有効に実施され、維持されている。」にリスク及び機会への取組みが含まれると思われれます。

Q: 認証範囲において、事業部などの縦割り組織と、本部機能の横割り組織が対象となっているケースにおいて、MS上の統合経営者とMS外含む事業部のトップの方針について、シンプルにMRや方針展開しているケースがあればお聞きしてみたい。

A: 回答者は、他にこのようなケースの審査経験はありませんので、具体例として答えられません。その上で、回答者の提案として述べます。

- ・一つの認証とする条件：顧客に提供する製品及びサービスを補完し、構成している場合が前提となり、縦割り組織または横割り組織のQMS及びそのプロセスが関連していること。

- ・**マネジメントレビュー**：縦割り組織または横割り組織のトップが、その方針に基づいて、それぞれの組織にとって特徴・固有性を加味して実施し、統合経営者が、統合方針に基づいて、総括のマネジメントレビューを実施する。
- ・**方針展開**：MS 上の統合経営者のマネジメントレビューからの統合方針に基づいて、縦割り組織または横割り組織のトップが、それぞれの組織にとって特徴・固有性を加味して方針を立て、それぞれの組織に展開する。
- ・**リスク及び機会**：統合方針に基づくものと、縦割り組織または横割り組織のそれぞれの組織の特徴・固有性を加味するものと思われる。

■「2020年度 第2回 ISO 情報交換会」に関する総括

今回の「ISO 情報交換会」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ZOOM によるオンライン開催となりました。

次回の「ISO 情報交換会」は、2021年3月の開催を予定しております。日程や内容等決まりましたら、改めてご案内致しますので、奮ってご参加下さい。

システム審査部長交代の挨拶

2020年10月1日付でシステム審査部長となりました落合まみです。

認証組織の皆様にご満足いただけるような認証機関であるため、またマネジメントシステムを維持改善することにより、顧客満足を向上させ、ひいては事業継続の一助となるよう、精一杯務めさせていただきたいと思っております。ご要望やご相談等ございましたら、WEBによるご相談も承っておりますので、お気軽にご連絡くださいますようお願い申し上げます。

最後に、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

● 2020年度の認証判定会議の日程は下記のとおりです ●

2020年	12月23日(水)
2021年	1月27日(水)
	2月24日(水)
	3月24日(水)

【お問合せ先】

一般財団法人 日本建築センター
システム審査部
TEL：03-5283-0476
FAX：03-5281-2827
E-mail：sinsa@bcj.or.jp

「ISO 内部監査員養成セミナー、出前セミナー」についてのお知らせ

今年度予定しておりました対面式のISO9001及び14001の内部監査員養成セミナーは終了いたしました（14001は催行人数に達しなかったため中止）。

なお、講師が会社に出向いて講習を行う「出前セミナー」はコロナ対策を行った上で実施する予定ですので、時期及び内容について以下の担当までご相談ください。

ISO9001及び14001の1日目の規格解説講習につきましては、オンライン又はオンデマンドによる動画配信のご要望も寄せられていることから、今後検討していきたいと思っております。公開等決定次第、ホームページに掲載しますので、ご受講くださいますようよろしくお願い申し上げます。

担当：情報事業部 岡林、草原
TEL：03-5283-0477